

## 保育所における大型遊具の遊びの研究

——三歳未満児のための室内大型遊具——

福岡 貞子

上月 素子

### はじめに

保育所保育の特性の一つに、3歳未満児保育があげられる。3歳未満児の保育は、その未熟性のために全ての活動を大人に依存し、常に保育者と共に行動することを余儀なくされ、戸外活動の制約を受ける。全身運動の要求を強くもち、目ざめている間中動きまわって遊びたい、3歳未満児保育の大半が室内活動であることを重要視し、「3歳未満児の全身運動・探索活動のための室内大型遊具」の共同研究を始めたのは五年前である。

安全な大型遊具の材料として、ダンボールを選び、大  
学での試作、そして、試作遊具の保育現場における実践  
によって、予想以上の有効性が認められたことに勇気を  
得て、広く保育現場へ普及することを願い製品化を考え  
たが、梱包や運賃がコスト高のため、営業ベースにのら  
ないことが判明した。

ここに、保育者集団による大型遊具の共同製作の必要  
が生じるのである。「保育所における大型遊具の研究」  
のうち、今回は、3歳未満児のための大型遊具を中心に  
述べることになる。

## 1 大型遊具の遊びの意義

子どもが健康に育つためには、戸外で全身を使って遊ぶことが大切である。また、全身運動を十分することによって、遊びの充実感が得られ、心身共に安定した状態となる。この全身を使う遊びは、戸外・室内の大型遊具による遊びがそのほとんどを占めている。

この大型遊具の遊びの意義は、次のようにまとめられる。

- ① 全身運動を伴う、自発活動が促される
  - ② いろいろな遊びが創造される
  - ③ 好きな遊びに挑戦する気持が培われる
  - ④ 多人数で遊べるので、友達との関わりが生れる
- など、大型遊具は、乳幼児の望ましい発達を助長するために、不可欠なものである。

この大型遊具にもいろいろな種類があり、戸外と室内、さらに、それぞれ固定式と移動式に分けられ、遊具の目的をもって製作されたものではない、素材遊具（ポ

ンコツカー、鉄道の枕木、電信柱、古タイヤなど）も創造的遊びのために有効な大型遊具となるのである。

## 2 3歳未満児の運動発達と遊具の関わり

6ヶ月以前の子どもは、周囲の刺激に対して受動的であり、大人に抱かれたり、あやされたりしながら、次第に周囲に対する反応のし方を学んでいくのである。6ヶ月を過ぎると、自分の方から積極的に働きかけるようになる。寝返り・這うなどの移動運動もできるようになる。周囲の事物を探索し、感覚・運動を通して、少しずつ認識していくようになる。このため、それぞれの発達に即した感覚・運動を中心とした遊びが十分行われるように、安全で自発活動が促される環境を整えることは保育者の重要な役割である。

0、1、2歳児のそれぞれの運動発達の特性と全身運動を促す大型遊具の関りは、次のようにまとめられる。

### (1) 歩行開始（15ヶ月）の頃まで

自分の身体の部位や、身の回りの用具に強く関心を示

し、いじくる、しゃぶる、動かすなどの探索行動が始まる。とりわけ、歩行開始前の移動運動のなかで、這う・坐る・つかまり立つ・つたい歩く・物を押すなどが、くり返し十分できるような大型遊具（作品A）が求められるが、安定性のある安全な大型遊具はそう多くはない。なかでも、歩行の開始に必要な足腰の筋肉を培うための〈物を押し歩く〉ために適した遊具などは、無いに等しい現状といえよう。

#### (2) 歩行開始から2歳まで

歩行が開始されると、歩行の習熟を目指して、押す・ひっぱる・のぼる・おろる・またぐ・すべるなどの運動を好んでする。この時期には、戸外・室内どちらでも、全身運動を十分させて、大筋肉を発達させることが大切となる。これらの全身運動には、安定性のある大型遊具は有効な環境となり、作品Aや作品Cのプレイウォールを他の大型遊具を組み合せていろいろな運動をさせる。

(3) 2歳から3歳まで

歩く、走る、跳ぶなどの基本運動の伸びが目立ち、リ

ズミカルな運動を好みよくひとりで踊っている。また、大きなものを力を入れて押す、鉄棒などにぶらさがれる、遊具の急な傾斜をよじ登る、段差のあるところからとびおろるなど、積極的に挑戦しようとする。

この頃は、ひとり遊びを充実させることはもちろんであるが、社会性が芽ばえ、友達を強く求めるようになるので、二人で一緒に遊べる遊具（牛乳パックの椅子やテールブルなど）や、いくつかの遊具を組合せて（作品C）数人の子どもが一緒に全身運動のできる場をつくり、触れ合う機会を多くすることが必要である。

#### (4) 障害をもつ子どもたちに

障害をもつ子どもといっても、さまざまであるが、何らかの障害によって、発達が足ぶみしている子どもは、3歳未満児の発達のようにと似ている。人間の発達は系統性をもち、歩行に至る移動運動の発達などは、①首がすわる、②寝返り、③這う、④ひとり坐り、⑤つかまり立ち、⑥ひとり歩きという順序性をもっている。2本の足で体重を支えて立ち、歩くためには、まず、首がすわ

り、身体をひねって寝返りができなければ、歩けるようにはならないのである。

運動発達ばかりでなく、0、1、2歳児の保育実践は障害児保育に多くの手掛りを提供している。障害児と遊具のかかわりについても、未満児保育に学び、障害児のための遊具・教具の手作りを積極的に行って、遊びの環境を豊かに用意し、障害児の体験を広げる努力が望まれるであろう。

### 3 3歳未満児の室内全身運動のための環境づくり

子どもの遊びは、全身を使う運動がそのほとんどであり、戸外活動を充分することによって、心身共に遊びの満足感が得られ、安定することは冒頭に述べた。

しかし、3歳未満児保育においては、その発達特性である、未分化、個人差が大きいなどの理由によって、全ての活動を大人に依存し、全身運動のための戸外活動に大きな制約を受ける。したがって、室内活動にウエイトがおかれ、子どもが遊びの充実感をもつためには、室内

の全身運動のための環境の整備にかかっているといても過言ではない。さらに、保育所保育の特性である、長時間・保育、通年保育などを考えると、3歳未満児のための室内大型遊具のあり方が遊びを左右するキーポイントとなるのである。

#### 〈3歳未満児の室内大型遊具の条件〉

①安全性が高い（適度な重量をもつ安定性と丈夫さ、衝撃を吸収する）

②発達に即して目的活用が可能

③コンバクトに収納、移動可能で場所をとらない

どこの保育所にも、3歳未満児の保育室には大型遊具の一つや二つはあるが、それらの遊具をみると、この三つの条件を備えた遊具はほとんど見当たらない。3歳未満児の室内遊びの充実のために保育現場の「子どもの立場に立つ」遊具の製作が広がり、それに対して、専門家による理論的位置づけがなされ、適切な遊具の開発が望まれる。

最近、保育者による手作り遊具の流行がみられるが、

作品のほとんどは、小型で布や毛糸が用いられている。また、廃材の活用にウエイトを置き、雑な製作の遊具もみられるのは残念である。

#### 4 保育者による大型遊具の製作

子どもを保育するのは保育者の本務である。その保育に必要な環境づくりもまた、保育者の役割の一つともいえよう。先に、述べたとおり、3歳未満児のための、室内大型遊具は、保育者集団による研究・試作が求められるのであるが、多忙な保育者が貴重な時間と労力を使つて行う遊具づくりは、遊具の機能を踏まえた専門的活動でありたいと考える。

##### 〈遊具の機能〉

- 。遊びが引き出される（自発活動）
- 。遊びを創り出す（創造活動）
- 。多目的に利用できる（個人差に対応）
- 。安全性が高い（安定・丈夫・衝撃の吸収）
- 。デザインの美しさ（芸術性）

これらの遊具の機能をふまえ、3歳未満児の室内大型遊具の条件を備えたものとして、我々は後に紹介する、大型ダンボール遊具、牛乳パックの遊具を試作し、保育者集団による製作実践を試みた。

##### 〈ダンボール材の特質〉

ダンボール材は、中が波状のうね（**二重**）になっているので、同じ厚さの他の材料より①軽量である。うねの向きを直交して重ね合せたり、内部に三角形の構造体を組み込むことで②丈夫になる。③暖みのある肌あいで、弾力性に富み④衝撃力を吸収する。他の素材（木材、合成樹脂など）に比して⑤加工が容易である。水には弱い。が、室内の使用には充分耐え、ペイント塗装や布貼りなどの表面加工によって、⑥耐久性が得られる。

##### 〈牛乳パックの特質〉

牛乳パックは、身近にあり、材料の入手が容易である。規格サイズ（1000cc、7×7×24.5cm）であるため、組合せる、つなぐなどの加工がしやすい。合紙（アルミ・紙・ポリエステルなど）を使っており、丈夫で耐久性に

富む。中空のため軽い。そのままでは弱い。二個をさし込んでユニットにする。ダンボール材で補強・仕上げの方法の工夫などによって耐久性が得られる。

これらの特質を生かして、製作された遊具の特徴は、3歳未満児の室内大型遊具の条件を全て備えており、有効性の高い遊具といえるのである。両者を比較すると、ダンボール遊具は相当の重量を有し、安定性に富む。牛乳パックの遊具は、軽くて、扱いやすい。製作が容易である。という長所があげられるが、特性は同時に限界でもある。

保育者集団による本格的な大型遊具製作に際しては、材料の特性を充分理解し、その特性を生かした遊具製作を考えることが大切であり、材料の扱いを誤ると危険な遊具となる恐れもある。

## 5 大型遊具製作がもたらす保育者集団の高まり

過去5年間の大型遊具製作実践の中で、保育者・学生・母親の三者を比較すると、さすがに保育者の作品は群

を抜いてすばらしい。作業の段どり、要領、スピードはもちろんのこと、頑丈な仕上り、作品の美しさに感嘆する。さらに、一度製作方法を習得すると製作意欲が盛り上がり、保育者でなければ思いつかないアイデアを生かした、真に「子どもの立場に立つ」遊具が考案されるのである。実際に製作している園の実践報告をまとめると、〈遊具製作の意義〉は、次のようになる。

○保育者が、愛情を込めて作った世界に一つしかない大切なもの。

○手作りの暖みのある風合をもつ。

○生活の中の廃材を活用し、安価である。

○生活に必要なものを自分の手で作る文化を伝承する。

これらの一般的意義に加えて

○子どもの発達や要求に合わせて創意工夫して製作する  
○自分の製作した遊具に愛着をもち、ものを大切に扱う  
生きたモデルとなる。

○苦勞して製作した遊具で遊ぶ子どもの姿が、新たな感動となり、子どもをよく観察し、発達との関連が押さ

えられ子どもを見る目が育つ。

。ダイナミックな共同作業によって、保育者の連帯感が高まり、保育の創造の原動力となる。

保育者集団による、大型遊具製作がエモーションとなり、保育創造の動機づけとなるならば、現場の保育を高めるために大きな役割を果たすことになる。とり組みにあたっては、それぞれの園の保育条件（立地条件・保育課題・職員組織など）を考慮して、計画性をもたせることが大切である。

- 要点は次のとおりである。園に必要な遊具を検討する
- 製作チームを編成し、時間と労力を生み出す。
- 材料を探し、集める。（地域の産業廃材の活用）
- とにかく製作を開始することである。

保育者が製作した遊具を子どもに提供してみることに  
よって、子どもの遊びに学ぶことが何より大切である。

「子どもは遊びの天才である」——保育者の思いつかな

い遊び方を次々に考え出すその姿に、新しい有効性が発見されたり、また、使い方によっては製作に補強の必要が生じたりして、保育者の創意工夫が求められてくるのである。

次にダンボールと牛乳パックで製作した大型遊具の一部を表にして、次頁に紹介する。

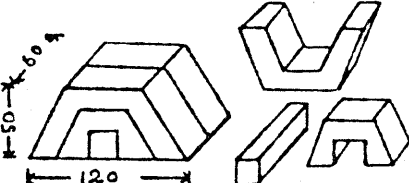
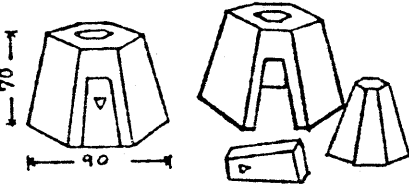
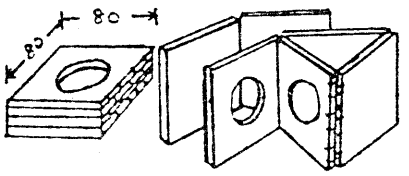
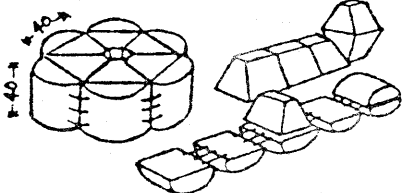
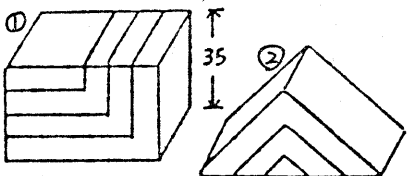
#### 関連研究発表

- ・ 日本保育学会第33・34・35回研究大会論文集
- ・ 「発達」7・8・11・12号
- ・ 「保育とカリキュラム」57年10月号



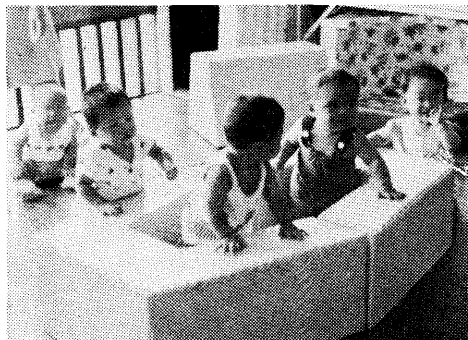
福岡貞子・四條駿学園女子短期大学  
上月素子・兵庫女子短期大学

## 6. ダンボールと牛乳パックの大型遊具

	試 作 (数字の単位はセンチ)	特 徴・遊 び 方
A		<p>特 徴 赤・青・黄色に塗装された大・中・小5個の積木は、がっちりとした台形にまとめられる</p> <p>遊 び 方 ロックライミング、トンネルくぐり、プレイハウス、乗物、動物にみたてるなど。</p>
B		<p>特 徴 六角形の台形に窓付というユニークな形。丈夫で安定感がある。</p> <p>遊 び 方 ロケットごっこ、モグラたたきゲーム、隠れ家、積木など。</p>
C		<p>特 徴 伸縮性のあるひもで接続した、4枚または2枚のダンボール板は、変化のある立体が構成できる。</p> <p>遊 び 方 迷路、プレイハウス、滑り台、コーナーついで、トンネルくぐりなど。</p>
D		<p>特 徴 台形状の積木と、半円柱をゴムでつないだバランス台は、構成遊びや運動遊びなど多様である。</p> <p>遊 び 方 積木、シーソー、フィールドアスレチック、じゃんけん遊び、乗物・動物にみたてるなど</p>
E		<p>特 徴 L字型積木の切口を90°と45°に変化させたことで多様な組合せが楽しめる。重ねると三角形、四角形にまとまる。</p> <p>遊 び 方 ままごとの家、乗物、コーナーパネル、台、積木、机と椅子など。</p>

試作遊具A. B. C. Dはダンボールを使用し、仕上げにペイント又は布貼りをしている。Eは牛乳パック (①は48コ ②は42コ) を使用し、布貼り仕上げをしている。





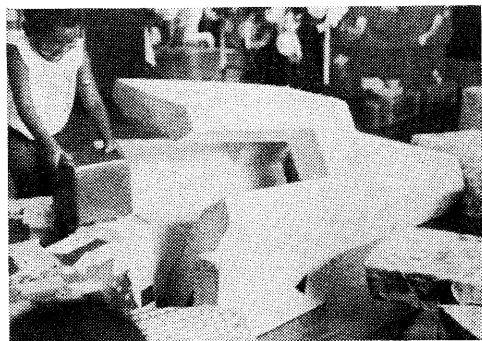
▲試作遊具A

U字型の囲みに入った乳児はつかまり立ちし、外側の乳児は、遊具を叩いて感触を楽しんでいる。



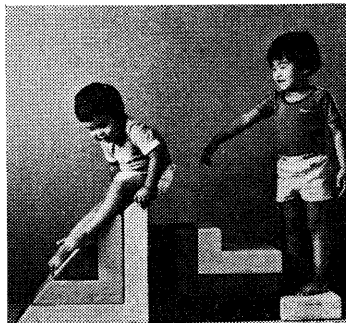
▲試作遊具C

ウレタン積木と組合わせて、変化のある面を構成する。山登り、坂下り、トンネルくぐりを楽しむ。(2歳児)



▲試作遊具B

ロボット型に組立てる。上へのぼって跳び降りても大丈夫。(4歳児)



▲試作遊具E

階段つきのすべり台。トントンのぼってひとすべり。(3歳児)